



令和元年9月号 Vol.25  
情報メディア教育センター

### 行ってきました「ブックハンティング」！ 《8月2日 丸善名古屋》

今年で3回目となるブックハンティング。図書委員はじめ17名のみなさんが参加してくれました。ハンティングした本は、2学期にお披露目しますのでお楽しみに！今回は、ブックハンティングの感想をいただきました。

私はブックハンティングでとてもいい経験ができました。まるで宝探しのようにとてもワクワクしました。みんなが新しい発見ができるような本や、「あまり図書館に来ない人が図書館に来て読むと思う本」、「読書が好きでない人でも楽しく読んでもらう本」を探すのは難しかったし、自分の好きなものにしてしまう衝動を抑えるのも苦労しました。そして、毎月、司書さんたちもブックハンティングのようなことをしていると思うと、とてもすごいと思うと同時に、感謝したいと改めて思えました。

ブックハンティングなんて、高校生であまりできない経験なので、もっと他の人にも知ってもらって参加してほしいです。また、司書さんたちが行っている、普段は私たち利用者に見せない裏側などを垣間見ることができて、これからも図書館を大切に良い時間と空間になるように自分ができることからしていこうと思います。

三年制 2年9組 八代 菜美さん

今年も参加ありがとうございました。いろいろ考えて、本を選んでくれました。こんなに図書館のことを思っていたいて、大々感謝です。

ブックハンティングのいいところは、自分の好きな本を選ぶことができることです。「この本図書館に無いな〜」とか、「こんな本ほしいな〜」とか思っているのなら、それが漫画とか雑誌でないならブックハンティングにいけば、図書館で読めるようになります。

大して欲しいっていう本を決めてこなかった僕は、選んだ本が少なすぎたから（別に多く選ぶ必要がないのだけれど）、終了30分前くらいから必死に本を探していました。欲しい本が決まっている人はすぐ終わると思います。あと、本の種類が結構あったから、ついでにする立ち読みも楽しかったです。

また、何故か賞味期限切れギリギリのお茶がもらえました。図書館で自分の読みたい本がある人は、是非ブックハンティングに参加してみてください。

中等教育学校 匿名 さん

思ったより時間が早く過ぎたみたいですね。まああれだけ広い書店なので、いろいろ迷いますよね。・・・お茶はいただきものなので、悪しからず。

しらゆい  
白露に 風の吹きしく 秋の野は  
つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける  
らんやのあさやす  
文屋朝康 一 小倉百人一首より一



ちょっと時季外れの百人一首を引いてきましたが、9月8日が二十四節気の1つ、白露(はくろ)です。草木に露がついているのが見られるころです。

「秋の野の草むらに一面の白露。風がしきりに吹くと、糸を通してつなぎとめていない玉が散ったように、露がぱらぱらとこぼれた。」宝石のようなきれいな白露が目浮かびますね。

秋の気配もちらほら、からだも心もクールダウンしていきましょう。

## 新着図書ピックアップ

### 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

プレイティみかこ【著】

保育士でライター of 著者はイギリス在住。アイルランド人夫の間に生まれた息子は人種と貧富もごちゃまぜの「元・底辺中学」に通い、差別や偏見にぶつかりながらも乗り越えていく。イギリス社会の分断を描きますが、日本にも通ずる社会問題だと思われます。息子の名言で「誰かの靴を履いてみる」とは他人の立場になって考えてみることを意味します。ユーモアあり、生活の気配を感じながら読んで、受験の小論文対策にも必見！（黒川）



### 『大事なことは自転車が教えてくれたー旅、冒険、出会い、そしてハプニング！』

石田 ゆうすけ【著】



7月号で自転車の旅による小説をおすすめしましたが、この著は自転車旅のノウハウから人生論まで幅広いジャンルに及びます。著者は自転車で世界一周を7年半かけて87ヶ国を巡っています。その間追いはぎ、窃盗、病気、猛獣など身に差し迫る恐怖と危険が隣り合わせ。でも著者は「ギギギー」など擬声語を混ぜてリアルでコミカルに語っているので、吹き出してしまいます。自転車に興味のない人でも面白いはず！（黒川）

### 『夜を乗り越える』

又吉 直樹【著】

作家でもあり、芸人の又吉さん。「なぜ本を読まなくてはいけないの?」「文学の何がおもしろい?」「文学って知的ぶりたいやつらが簡単なことをあえて回りくどく言ったり、小難しく言ったり格好つけてるだけやろ?」…という問いに対して、彼なりに逃げずに考えています。小説に救われ、小説が好きすぎて自分でも書いた、という又吉さん。彼が本を読み始めた理由、おすすめする本も知ることができます。（大迫）



### 『はじめて学ぶみんなの政治』

浜崎 絵梨【訳】/国分 良成【監修】



7月に参議院選挙がありましたね。選挙の結果、要件を満たして新しく政党となった政治団体があつたりと様々話題にもなりました。

さて、この本はイギリスで発行された子どもから大人まで楽しめる政治入門書を翻訳したものです。（原書名『Politics for Beginners』。）

テーマごとに古今東西の政治や社会のしくみ、それにまつわるエピソードをイラストと共に解説。カラフルな紙面なのでパッと開いた部分を読むだけでも楽しめます。気負わずに、ぜひ♪（大迫）

新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで!」と思う本を選びすぐってお届けします。上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。

趣味は読書と言いたい・藤崎一臣の

## 本、読んでいこう！ Vol. 23

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 東野圭吾【著】



いやぁ～梅雨明けが遅かったものの、今年も暑い夏でしたね。…でしたね。ではなく現在進行形で暑いですね…。夏休みいかがでしたか？楽しい思い出など聞かせてください。

さて、今回ご紹介する本は『ナミヤ雑貨店の奇蹟』。初の再読です。

あらすじの紹介はしません！とにかく相関関係がすごいんです。登場人物が“うわっ！この人とこの人も最終的につながるの！？”と読み進めれば読み進めるほどゾクゾク感が高まっていく作品です。ぜひ、読んでみて！

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』は映画化もされています！一昨年、上映されていたかと思います。EMCにDVDもありますので、ぜひ！

ちなみに私の場合は、本→映画→本という形で堪能しました。どの作品にも共通して言えることだと思いますが、映画を見る前に必ず原作を読んでほしいですね。初めに“映画”も決して悪くはありませんが、上映時間の尺が定められた中で制作/編集しなければならないため、どうしても内容の濃さでいうと原作（本）に劣ってしまうんですね…。著者の世界観や思いが直に伝わるのは絶対本だと思うんですね！だから私的には、本を読んでから映画を観ることをオススメします。

…と言ったものの、先日、「天気の子」の映画を先に観ちゃいました。まだ観ていない人が多いと思うので感想は言いませんが、う～ん！青春！って感じです。おじさんになった私には刺激が強すぎましたね（笑）

また時間があれば小説も読んでみたいと思います。

最後に、再読してみて…やはりストーリーを知っているため1回目に比べ感動半減といったところでしたね。再読は、小説ではなく自己啓発系の本が一般的なのかな…。



『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 第7回中央公論文芸賞受賞（2012年）



### 第21回 打田悠斗先生おすすめの『十角館の殺人』

伝説の建築家・中村青司が建てた風変わりな「館」で、次々と不可解な惨劇が…。と設定自体は、ありふれたモノですが終盤近くの“たった1行”で大きな衝撃を受けました。ミステリー小説が好きで大学時代に読み漁っていたときに出会った本です。ちなみに「館シリーズ」では、第三作目の『迷路館の殺人』も好きです。

綾辻行人【著】 講談社

※お薦め本はリレー連載です。次のボタンはどなたに渡るかな？

### 9月の開館予定

9月	
1 日	休館
2 月	8:10-17:50
3 火	8:10-17:50
4 水	8:10-17:50
5 木	8:10-17:50
6 金	8:10-17:50
7 土	休館
8 日	休館
9 月	8:10-17:50
10 火	8:10-17:50
11 水	8:10-17:50
12 木	8:10-17:50
13 金	8:10-17:50
14 土	休館
15 日	休館
16 月	休館
17 火	8:10-17:50
18 水	8:10-17:50
19 木	8:10-17:50
20 金	8:10-17:50
21 土	休館
22 日	休館
23 月	休館
24 火	8:10-17:50
25 水	8:10-17:50
26 木	休館/館内整理
27 金	8:10-17:50
28 土	休館
29 日	休館
30 月	8:10-17:50

Emc  
Navi

## 「日本文学全集」って読んだことある？



2学期が始まりました。校舎に生徒の皆さんの明るい声が響いています。

EMCの9月は、いつもの新着に加え、なかなか普段購入できない本など、蔵書強化キャンペーン、いつもの3倍増して配架予定です。今回、「日本文学全集」が新しく入りますが、文学全集なんて、前から図書館にあるじゃん？って思ったあなた。いやいや、全集ってのは、どれも同じではないんですよ。

今回は、その『日本文学全集』（河出書房新社）についてのご紹介です。

### ☆なぜいまさら、文学全集なの？

👑【理由①】「全集」とひとくちに言っても編者（全集に載せる作品を選ぶ人）や訳者（現代語に訳する人）によって内容も大きく変わります。

今回の全集は不朽の古典作品を、いま第一線で活躍する現代作家の新訳で甦らせていることが特徴のひとつです。

たとえば平安中期の作品「更級日記」の冒頭部分、既存の現代語訳では、「東路の道のはてなる常陸…」などといわれるけど、その常陸よりももっと奥深い土地で育った人、そんな私はどんなにかみすぼらしく鄙（ひな）びていたろうに…。これを江國香織という作家が訳すと、「有名な歌に出てくる「あすま路の果て」よりも、さらにもっと田舎で育ってしまった娘、それが私だ。洗練からは程遠かったはずなのに、」訳者によって、こんなに変わるんだ！と実感してください。

（ほかにも森見登美彦、島本理生、町田康、円城塔などの作家も新訳に携わっています。）

👑【理由②】なんととっても装丁（本の表紙や外形）が素敵です。河出書房新社が出しているこの個人編集の全集は、パステルカラーの装丁がとても綺麗で目を惹きます。つい手に取りたくなる色使い。「手に取って読みたくなる」って大事だと思うのです。

### ☆蔵書強化はほかにも！！

全国の旅ガイド『ことりっぴ』、職業がわかる本、ジブリのDVDなどなど。

EMCに是非来てくださいね。

### 図書館からのお知らせ

●センター試験の過去問あげます。（2階カウンターにて）

「センター試験過去問データ30年分」と「私立大学の入試問題データ2019年度版」の準備が整いました。データが必要な人はUSBを持ってきてね。



### 編集後記

新着の本は登録・装備が終わり次第、2階カウンター前の書架やブックラウンジ書架コーナーに配架しています。本とDVD、どちらもお楽しみに★（大迫）

